

新県立体育館整備等に関わる提言書

海と陸の交通が結節するサンポート高松に建設される新県立体育館は、平成29年12月に策定された「新香川県立体育館整備基本計画」に基づき、平成35年度の完成に向けて、基本・実施設計業務の公募型プロポーザルによる設計業者の選定手続が行われているところである。

この新県立体育館は、本県スポーツの中核的な機能を有するとともに、人口減少や少子化により地域力の低下が懸念される中において地域の活性化の拠点となるよう、「競技スポーツ施設」、「生涯スポーツ施設」、「交流推進施設」としての機能を併せ持つ施設として整備されるものである。

とりわけ、メインアリーナの最大収容人数は1万人以上と中四国最大級であり、県内外からアクセスしやすいサンポート高松の立地上の優位性を活かせるよう、集客力のあるスポーツ競技大会はもとより、トップアーティストによるコンサートやMICE等の誘致による地域経済の活性化に資する施設としての役割が期待されている。

しかしながら、香川県の玄関である高松市にふさわしい外観は必要ではあるが、旧県立体育館がそうであったように、後年の維持管理・改修費や機能性並びに利用者の収益性、建築コストに大きな負担となつてはならない。外見のシンボルではなく、日本を代表する中身のシンボルを目指すべきである。

平成28年11月にスポーツ庁から公表された「スタジアム・アリーナ改革指針」では、スポーツの成長産業化を妨げている可能性のあるスポーツ施設に対する固定観念や前例主義等に関するマインドチェンジを促すとともに、スタジアム・アリーナを核とした官民連携による新たな公益の発現のあり方が提示されているが、新県立体育館は、まさにこの理念を踏まえて整備されるべきものである。

そこで、以下の提言を踏まえた基本・実施設計業務が可能である設計業者を選定することを本委員会として申し入れる。

記

- 1 イベント主催者の視点に立ち、外観のデザインなどの芸術性よりも機能性や収益性を重視してアリーナ機能を充実させるとともに、戦略的な広報活動を行うことにより、全国的にも先駆的な魅力ある施設として、イベント主催者から選ばれ、継続的に利用される施設とすること。
- 2 施設の持続可能な運営を目指すため、建設コストや維持管理費を最適化した設計を行うとともに、管理運営方法や年間稼働日数の確保策を検討すること。
- 3 JR高松駅やことでん高松築港駅からのスムーズな移動が可能となり、初めて訪れた方にもわかりやすく安全で快適な動線を確認できるよう、調査・研究を行い、来館者の利便性を向上させること。
- 4 県民にとって地域を代表するシンボルとして親しみやすく、将来にわたって喜ばれ、評価されるような体育館となるよう、完成後の活用策やイベントの誘致方法についても検討すること。
- 5 集客力や収益性を向上させるため、ITや最先端技術を活用した情報発信戦略を行える施設とすること。
- 6 スポーツ産業の持つ成長性を取り込みつつ、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の観点から、サポーターなどの多様な主体も巻き込みながら、地域経済の持続的成長を実現していく施設とすること。
- 7 収益性の向上や効率的な管理の観点から、運営・マーケティング等を専門的にマネジメントできる知見を持った人材・団体から意見を聞き、基本設計等に反映させること。
- 8 以上の提言内容を審査委員に正確に伝えること。

平成30年6月15日

県立体育館整備等に関わる特別委員会
委員長 大山 一郎